

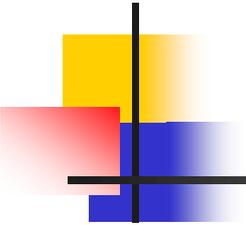
2016中期計画の進捗状況

2016-2018

2017年5月18日

鉦研工業株式会社

経営管理本部



目 次

1. 事業環境
2. 成長戦略
3. 売上高の状況
4. 設備投資の状況
5. 研究開発投資の状況
6. 財務目標の状況

1. 事業環境(1)

(建設経済研究所 2017年1月発表数値)



国内建設市場は2019年まで現行水準を維持、東京五輪後に減少に向かう見込み

ニッチ市場ながら成長が見込める分野

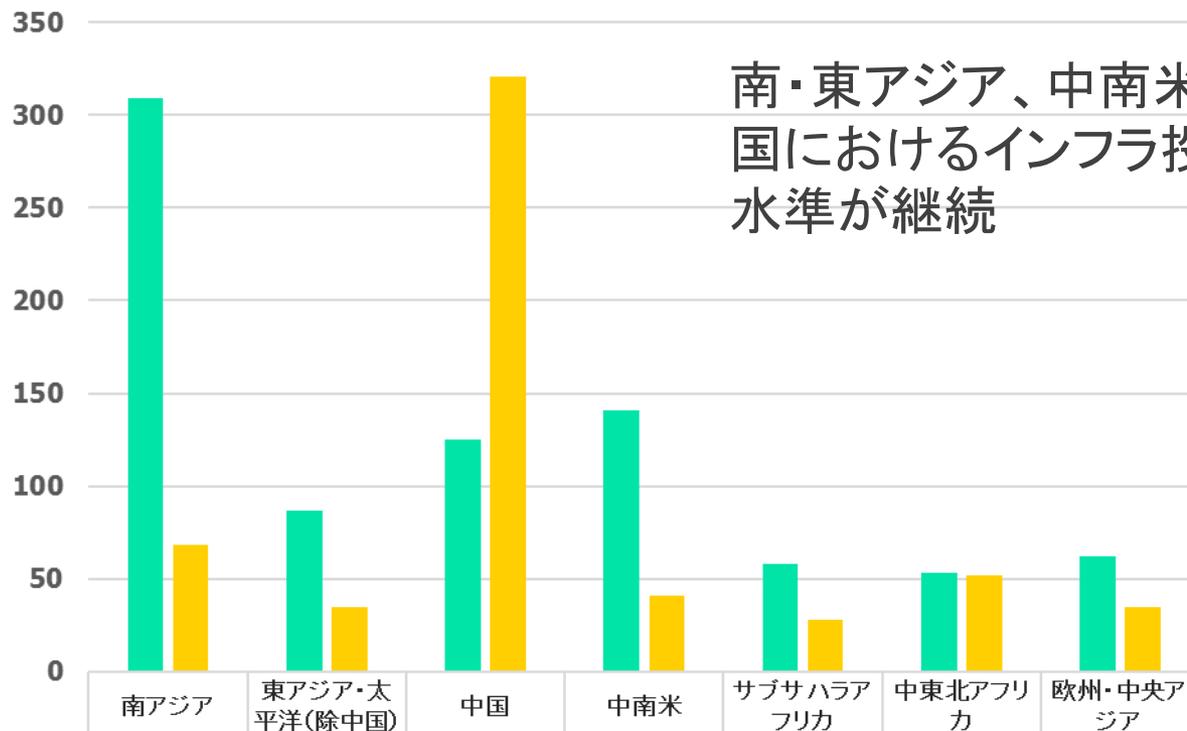
- リニア中央新幹線トンネル(長尺コントロールボーリング)
- 整備新幹線・高速道トンネル(先進調査ボーリング、地盤改良)
- ビル基礎工事(アンカー工事)
- クリーンエネルギーの利用(地熱、地中熱、温泉、波力・小水力発電)
- 海底資源調査回収、他

1. 事業環境(2)

新興国・途上国におけるインフラ需要・投資の将来予測(2014-2020)

(経産省 通商白書 2016年版)

(10億ドル)



■インフラ需要	309	87	125	141	58	53	62
■予想されるインフラ投資	68	35	321	41	28	52	35

2. 成長戦略

2016中期計画 上位目標： 新たな環境下、売上拡大と高収益の維持を達成

1) 海外事業の拡大

- ・駐在員事務所開設、代理店網構築、攻略製品現地生産等による東南アジア市場の攻略
- ・中、韓、台、その他へロータリーパーカッションドリルの拡販
- ・ODA水井戸案件への積極的取り組み

2) ONE&ONLY技術の確立

- ・トンネル、コントロールボーリング、大口径立坑掘削、温泉開発等の得意工種で業界唯一無二のボーリング施工技術を確立

3) 新成長市場、低シェア市場、新規顧客の確実な攻略

- ・地中熱・地熱等の再生可能エネ、資源開発市場等へ参入
- ・都市土木、ダムトンネル、水井戸等、低シェア市場への再アプローチ
- ・従来機種 of 汎用性を高め市場分野拡大

4) ストック・ビジネスへの注力

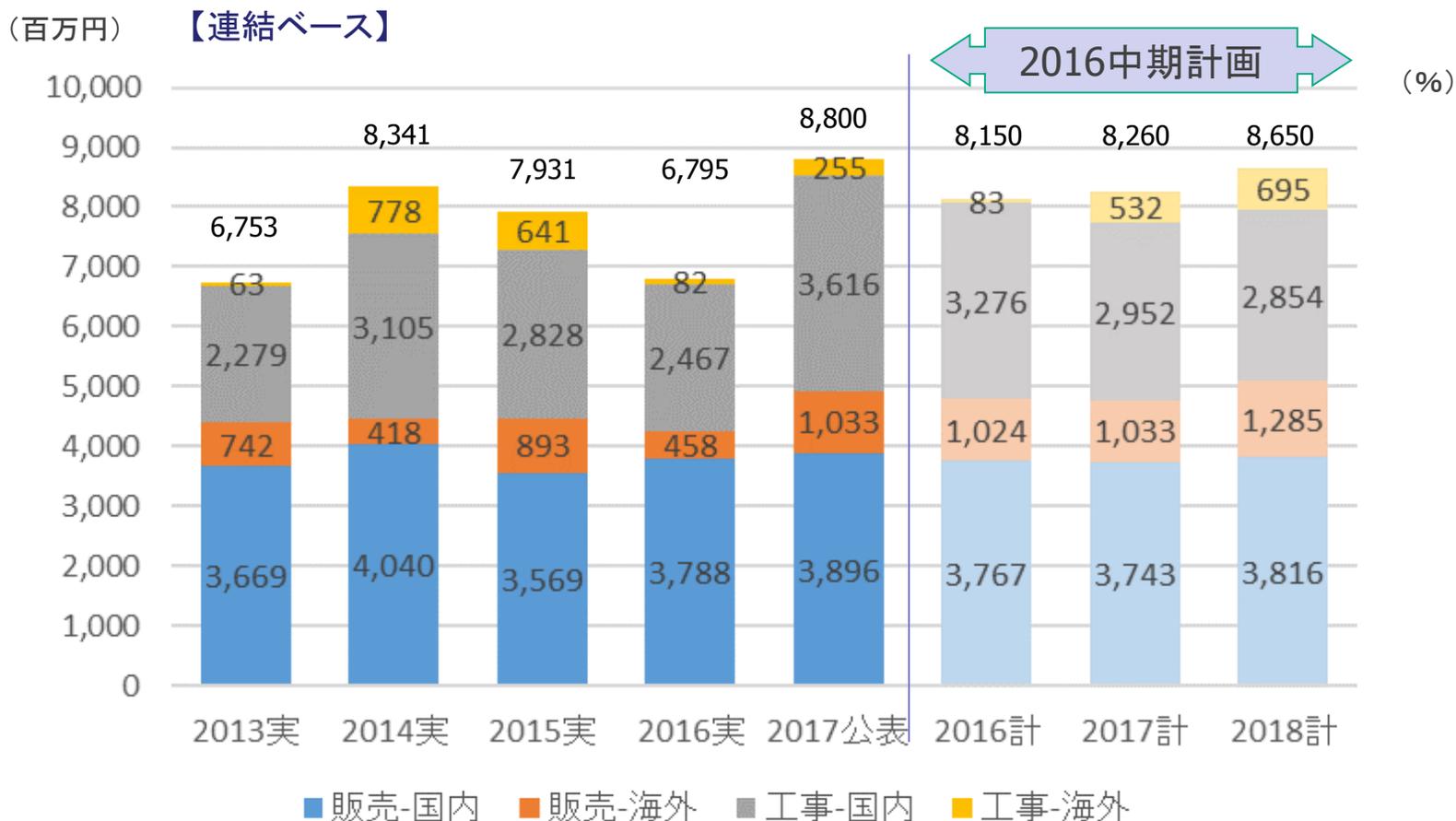
- ・メンテナンス全国ネット・中古機販売ルート構築による部品・商品の拡販
- ・生産管理システム連携による在庫適正化

5) 経営効率の向上

- ・製品開発改良の迅速化、社内体制変革による販売力強化
- ・VEによる原価低減、即納率向上と在庫縮減
- ・社員活性化、女子社員・シニア社員の活用

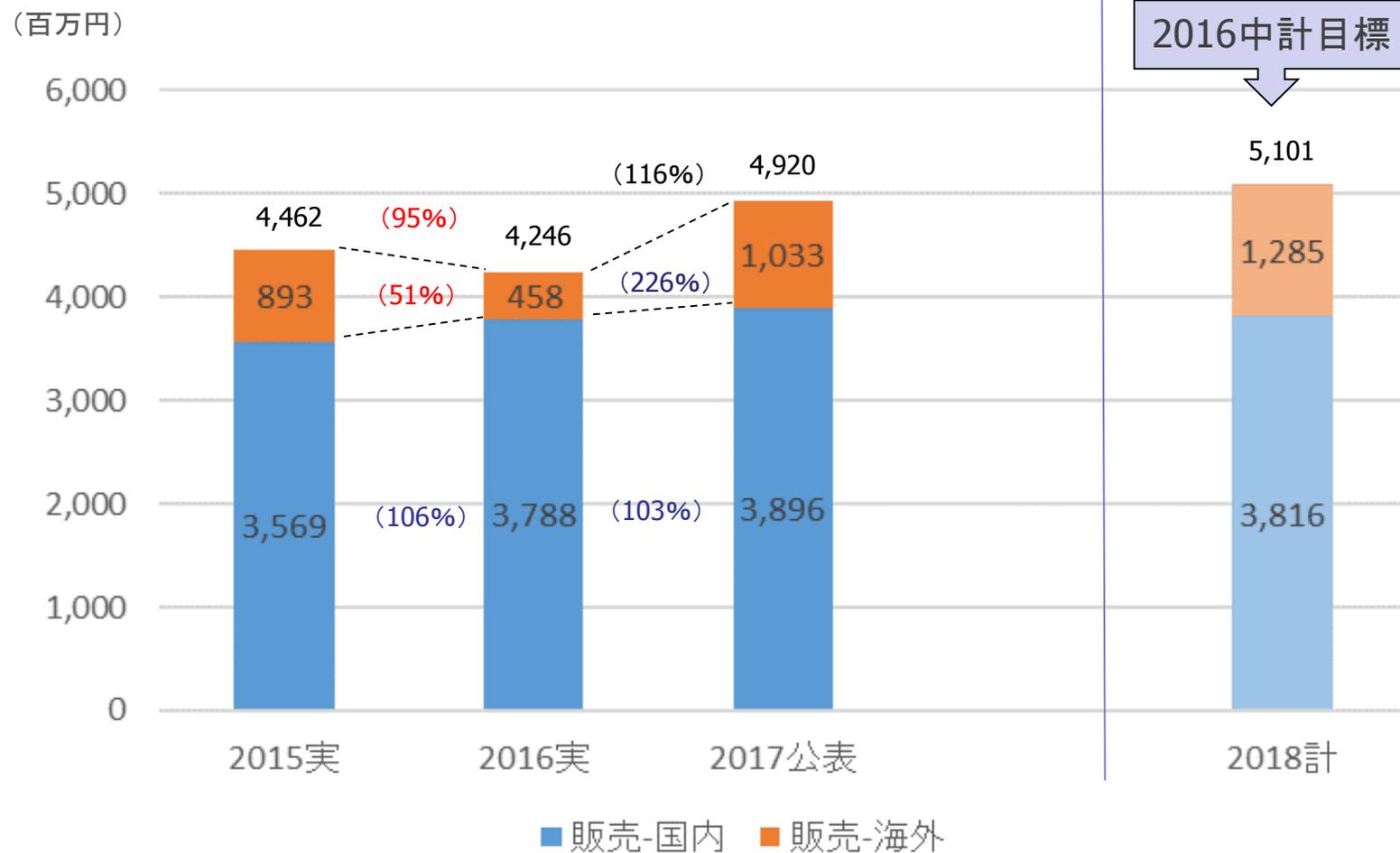
3. 売上高の状況

2016年度はリニア建設工事の着工遅れ、海外商談のずれ込み等で減少。
2017年度は同工事の着工本格化に乗って最大限の機材販売と工事受注を
計画、また成長戦略を実施しその効果を発揮して大幅売上拡大を見込む。



3. 売上高の状況

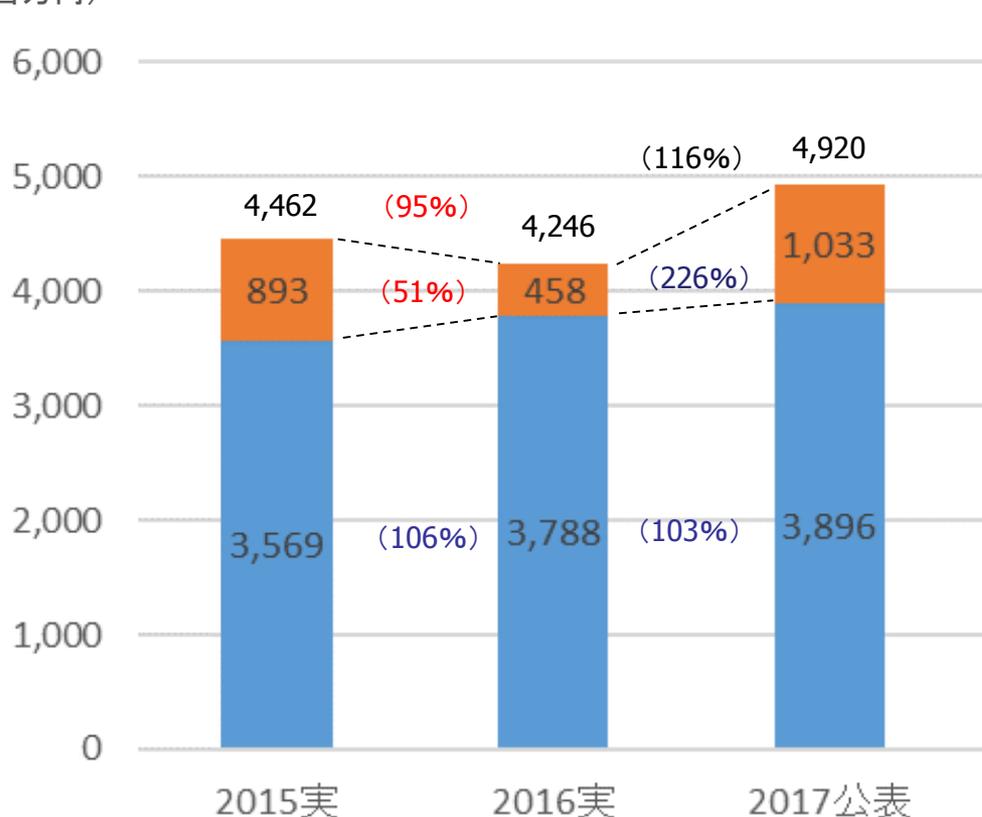
ボーリング機器関連 【連結ベース】



3. 売上高の状況

ボーリング機器関連

(百万円)



■ 販売-国内 ■ 販売-海外

2016実の売上減小理由

1. 主力RPD機に対する商談減少
2. コントロールボーリング工事の新規受注が2017年度へずれ込み
3. 海外(中国)では既存製品の改良に注力したため新規商談が2017年度へずれ込み

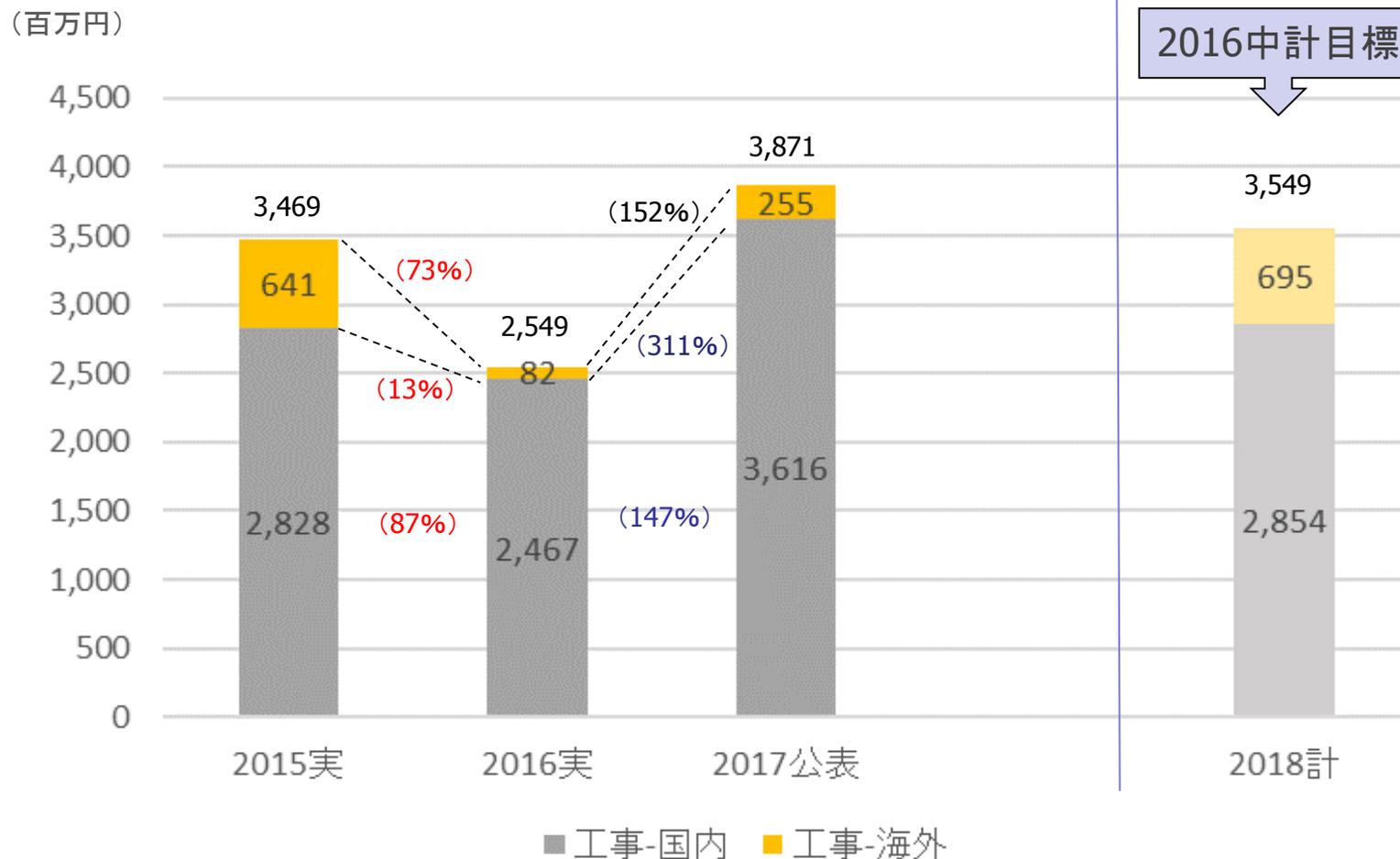
2017公表の売上拡大策

1. リニア新幹線建設工事の着工・本格化を機にコントロールボーリング機材(掘削機と高圧ポンプ)をレンタル業者等へ売り込み
2. 海外1,033百万円の2分の1はODA水井戸案件で受注済み
3. 残る海外で重要案件は①中国の新規商談成約、②東南アジア攻略用のスピンドルタイプ掘削機の拡販、③第4次排ガス規制対応RPD機の東アジア市場投入

3. 売上高の状況

工事施工関連

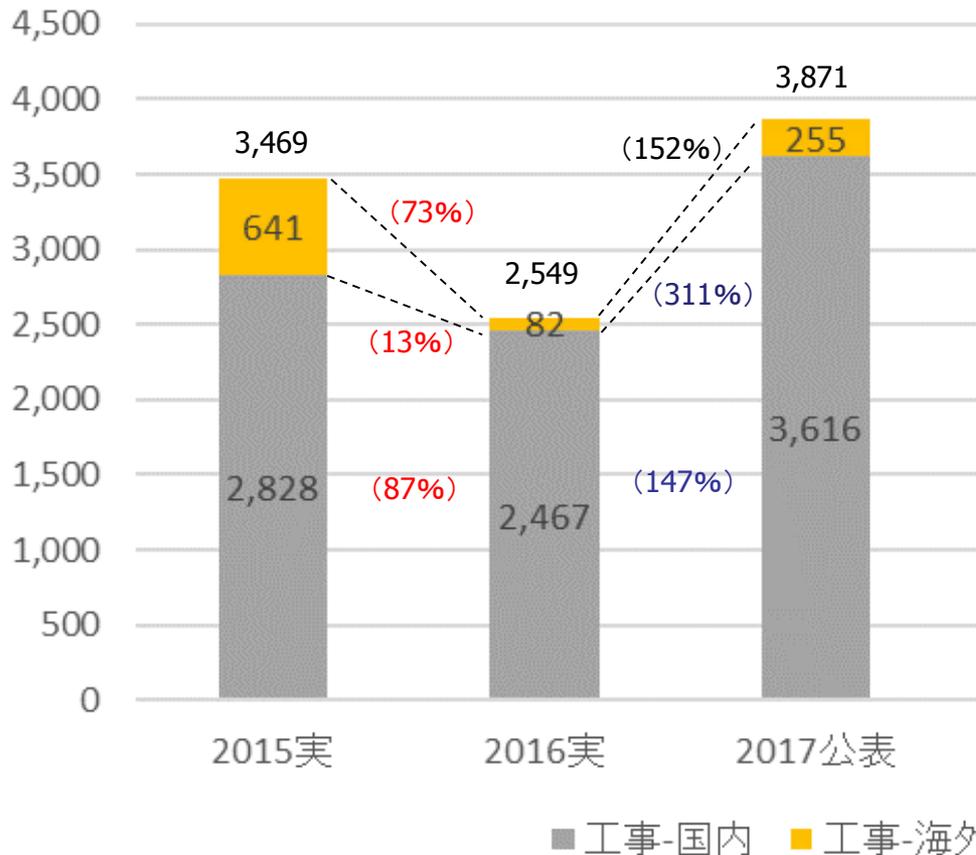
【連結ベース】



3. 売上高の状況

工事施工関連

(百万円)



2016実の売上減小理由

1. 前年度、完工高を稼いだ海外ODA工事が一服
2. コントロールボーリング工事の新規受注が2017年度へずれ込み
3. 鉄道・道路の延伸に伴うトンネル先進調査工事は好調
4. 大型アンカー工事の着工遅れ

2017公表の売上拡大策

1. リニア新幹線建設工事の着工・本格化を機にコントロールボーリング工事の受注を最大化
2. 新国立競技場ほか首都圏再開発に伴うアンカー工事増
3. 鉄道・道路の延伸に伴うトンネル先進調査の好調継続
4. 都市、リゾート地での新規温泉開発
5. 福島第一原発ドレイン工事
6. 海外ODA工事は受注済み

4. 設備投資の状況

総額 15億円

1) 厚木工場のリニューアル投資

工場構内に新工場棟を増築、既存工場棟を修理し、増産、効率向上、更新

2) 施工工事用機材投資

コントロールボーリング、大口径立坑掘削、温泉掘削等の能力増強

3) 諏訪工場投資

機材メンテナンスセンター、開発試験場としての機能拡大

4) 業務効率化のためIT投資

営業管理、生産管理、人事給与、実地たな卸し等の新システム開発

進捗状況

基本構想完了
これから建築設計着手
全面竣工は2019年度

大口径立坑掘削にスパイラルスタピライザー

ロッドパイプ圧接機の設置
試作機の性能試験実施
機材保管棚の新設

人事給与システム切り替え
新生産管理システムの運用開始

5. 研究開発投資の状況

総額 5億円

進捗状況

1. アジア市場開拓のための製品開発

1機種：市場投入済

2. 災害対応、燃料デブリ調査、ボーリング作業省力化のためのボーリングロボット

試作機の性能試験中

3. 大容量、軟弱地盤改良用の高圧ポンプ

試作機の改良設計中

4. 地中熱削孔作業能率向上のためのスーパーバイブロヘッド

試作ヘッドの性能試験中

5. 地熱発電生産井の掘削機械

需要調査中

6. 海底資源調査用コア採取ドリル

海洋試験に向け準備中

7. トンネル先進調査技術の高度化

性能試験中

8. 著しい地質条件下での長尺コントロールボーリング技術

関連技術の調査中

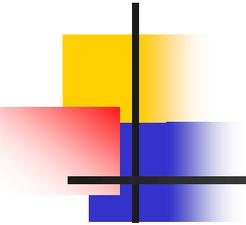
6. 財務目標の状況

		2015年度		2016年度		2017年度		2016中期計画 目標	
		実績		実績		公表		2018年度	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体
売上高	百万円	7,931	6,989	6,795	6,187	8,800	7,677	8,650	7,750
営業利益	百万円	751	648	185	185	620	541	830	770
営業利益率	%	9.5	9.3	2.7	3.0	7.0	7.0	9.6	9.9
経常利益	百万円	739	679	197	236	620	580	790	760
当期純利益	百万円	840	821	298	331	455	445	460	460
ROE	%	28.4	28.8	8.7	9.8	12.1	12.1	10.4	10.6

(注) 当期純利益は繰延税金資産を2015年度に151百万円、2016年度に141百万円、それぞれ計上後の数値

2016年度は、売上・利益・ROEとも不本意な実績

2017年度は、売上を成長軌道に戻し利益・ROEを大幅改善できる見込み



2016中期計画の進捗状況

これで説明を終了します
ご清聴ありがとうございました